エネルギー

1．評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

ＩＮＰＥＸ、石油資源開発、出光興産、ＥＮＥＯＳホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

キューデンホールディングス（注）、岩谷産業、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、北海道電力、電源開発、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（注）九州電力が純粋持株会社体制へ移行した（2026 年 10 月）。

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 16 名（所属先 15 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、一部の項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 66.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.8 点（昨年度 9.0 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 74.9 点（昨年度 76.6 点）、電力・ガス部門（16 社）が 65.2 点（昨年度 63.1 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 75.2 点（昨年度 79.8 点）、鉱業 74.3 点（昨年度 72.0 点）、ガス 70.1 点（昨年度 68.0 点）、電力 62.9 点（昨年度 60.9 点）となった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 68%（昨年度 66%）、**説明会等**が 67%（昨年度 66%）、**フェア･ディスクロージャー**が 92%（昨年度 90%）、**ESG 関連**が 66%（昨年度 64%）、**自主的情報開示**が 64%（昨年度 61%）となり、昨年度に比べ 5 分野全てに

おいて平均得点率が改善した。

④　評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、**フェア･ディスクロージャー**の 2 項目(a)・(b)は、平均得点率が 85%以上となり、高水準となった。

(a)　「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 95%〔昨年度 92%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 1 社・80%台 1 社・90%台 17 社・100%2 社）

(b)　「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 89%〔昨年度 86%〕）（得点率：80%台 7 社・90%台 12 社・100%2 社）

⑤　一方、**経営陣の IR 姿勢等**の中の次の項目(a)は、平均得点率が 50%台となり、全項目の中で最も低かった。東京瓦斯、中国電力および九州電力など一部の評価対象企業が高水準の得点率となったが、全体としては依然低水準にとどまっており、下位評価企業には改善努力を強く求めたい。

(a)　「複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 55%〔昨年度 52%〕）（得点率：20%台以下 5 社・30%台 2 社・50%台 5 社・60%台 2 社・70%台 3 社・80%台 4 社）

(2)　全体の上位３企業の評価概要

第１位　ＩＮＰＥＸ（ディスクロージャー優良企業（2 回目）、
総合評価点 78.9 点〔昨年度比＋2.4 点〕、昨年度第 5 位）

①　同社は **ESG 関連**が第 1 位（得点率〈以下省略〉82%）、**経営陣の IR 姿勢等が**第 2 位（76%）、**説明会等**が同得点第 2 位（79%）、**自主的情報開示**が第 3 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 4 位（94%）となった。5 分野のうち 3 分野（**ESG 関連**、**経営陣の IR 姿勢等**および**説明会等**）において、昨年度に比べ得点率が改善し、この結果、14 年振りの第 1 位受賞となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営陣による明確な情報発信や経営方針の分かりやすさに加え、説明会や Investor Day への社長の登壇、説明会以外の投資家との積極的な対話など､経営トップが IR 活動に主体的に関与している点を評価する声が寄せられた。また、株式市場の意見を経営に取り入れようとする姿勢や、キャッシュフロー配分において株主還元の充実を継続している点を評価する声があった。また､「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となったが､「社外取締役との対話」は第 15 位にとどまった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第 2 位､「説明資料等における開示」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、説明資料において、セグメント別業績予想や ROIC を含む定量的な情報開示が充実している点を評価する声が寄せられた。なお、実績の増減要因について油価や為替の感応度を踏まえた説明資料への記載を望む声があった。また、税金費用の変動が大きい場合には、その要因に関するより分かりやすい説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が共に 90%以上の得点率となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」の 2 項目が共に最も高い評価となった。また､「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」も最も高い評価となったほか､「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、株式市場を重視する経営姿勢や方針を上回る株主還元への取組みに加え、アバディプロジェクトの建設期間中および運転開始後のキャッシュフロー見通しについて説明している点を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第 3 位となった。これに関連して、Investor Day の開催などを通じて、業界

や事業の特性を踏まえた自主的な情報開示や説明の機会を積極的に設けている点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　コスモエネルギーホールディングス　（総合評価点 76.4 点〔昨年度比－6.8 点〕、昨年度第 1 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（80%）、**ESG 関連**が第 2 位（76%）、**フェア･ディスクロージャー**（94%）、**自主的情報開示**（70%）が同得点第 4 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 5 位（75%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位となった。これに関連して、社長が説明会などに積極的に参加し、率直な意見交換の機会が確保されていることを評価する声があった。また、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位（昨年度第 1 位）に、「社外取締役との対話」が第 9 位（昨年度 1 位）となり、昨年度に比べて、共に得点率が大きく下がった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となったほか、「説明資料等における開示」も同得点第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、説明資料において定量的な情報開示が充実している点に加え、取材時の補足説明においても定量的な説明が多く、有益な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。また、IR 部門と経営陣の距離が近く、連携が図られている点を評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が 90%以上の得点率となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第 3 位、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」の 2 項目および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第 3 位となった。これらに関連して、新中期経営計画において、総還元性向目標や ROE 目標を踏まえた資本政策および株主還元方針が明確に示されている点や、意欲的な株主還元方針を堅持する経営姿勢を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は同得点第 4 位となった。これに関連して、事業説明会や見学会を通じて丁寧な情報発信を行っている点に加え、AI・IT を活用した製油所の効率運用など、具体的な取組内容を分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。

第 3 位　大阪瓦斯　（総合評価点 76.1 点〔昨年度比＋3.3 点〕、昨年度第 6 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（78%）、**ESG 関連**が第 3 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 4 位（94%）、**説明会等**が第 6 位（74%）、**自主的情報開示**が第 8 位（67%）となった。**自主的情報開示**を除く 4 分野において、昨年度に比べ得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位、「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となった。また、「社外取締役との対話」は第 5 位（昨年度第 9 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、社長が説明会などに積極的に参加し、株式市場との対話を推進していることに加え、社長の説明が明確かつ合理的で理解しやすい点を評価する声が寄せられた。さらに、北米事業をはじめとして開示内容が継続的に改善している点を評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第 4 位（昨年度同得点第 7 位）、「説明資料等における開示」が同得点第 6 位（昨年度第 10 位）となり、共に昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、説明資料において定量的な情報開示が充実している点や、取材時の補足説明において有益な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。また、電力事業や海外事業に関する開示が充実してきた点を評価する声もあった。なお、ガス事業および電力事業の費用項目に関する開示の充実や開示再開を望む声があった。また、電力事業の業績予想に資する情報開示の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が 90%以上の得点率となった。

⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」は第 2 位となった。

「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は同得点第5位（昨年度第7位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。「非財務情報（ESG情報等）に関する開示」（2項目計）は第8位となった。これらに関連して、ROICを軸とした経営やROE重視の方針のもと、株主還元方針の見直しやDOE目標の引き上げを行うなど、資本効率を意識した経営を推進している点を評価する声が寄せられた。また、ROE目標の達成と総還元額の維持を掲げることで、経営の自由度と株主還元に対する期待値のバランスを図っている点を評価する声があった。なお、上場株式保有に関する説明の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第8位となった。これに関連して、各種見学会や事業説明会を充実させ、事業への理解を深める機会を提供している点を評価する声が寄せられた。なお、自主的な情報開示に関しては、月次開示を含むさらなる情報開示の充実を望む声もあった。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

ＩＮＰＥＸ（総合評価点78.9点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

大阪瓦斯　（総合評価点76.1点、全体第3位）

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（エネルギー:全体）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1605　INPEX	78.9	26.6	2	15.8	2	4.7	4	24.5	1	7.3	3	5
2	5021　コスモエネルギーホールディングス	76.4	26.1	5	15.9	1	4.7	4	22.7	2	7.0	4	1
3	9532　大阪瓦斯	76.1	27.4	1	14.8	6	4.7	4	22.5	3	6.7	8	6
4	5020　ENEOSホールディングス	75.2	26.4	3	14.7	7	4.7	4	22.4	4	7.0	4	3
5	5019　出光興産	74.0	25.3	8	15.0	4	4.7	4	22.1	5	6.9	6	2
6	8174　日本瓦斯	73.4	23.2	12	15.8	2	4.9	2	22.1	5	7.4	2	4
7	9531　東京瓦斯	73.0	26.4	3	14.0	10	4.6	13	21.5	7	6.5	9	7
8	9509　北海道電力	71.4	25.7	6	13.5	11	4.9	2	20.8	8	6.5	9	10
9	9507　四国電力	70.8	25.3	8	14.2	8	4.7	4	20.7	9	5.9	16	12
10	1662　石油資源開発	67.9	22.2	13	14.9	5	4.6	13	19.4	13	6.8	7	8
11	9504　中国電力	67.7	24.8	10	12.3	16	4.7	4	20.3	11	5.6	18	16
12	642A　キューデンホールディングス(*)	67.2	25.7	6	13.0	14	4.6	13	17.6	15	6.3	11	9
13	9513　電源開発	66.9	24.4	11	14.2	8	4.7	4	17.7	14	5.9	16	11
13	9519　レノバ	66.9	21.0	17	13.5	11	5.0	1	19.7	12	7.7	1	18
15	9533　東邦瓦斯	63.8	19.0	20	13.2	13	4.6	13	20.7	9	6.3	11	15
16	9506　東北電力	62.3	22.2	13	11.8	17	4.7	4	17.5	17	6.1	14	13
17	9503　関西電力	62.0	22.1	15	12.6	15	4.5	18	16.7	20	6.1	14	20
18	8088　岩谷産業	60.5	20.3	18	11.7	18	4.6	13	17.6	15	6.3	11	19
19	9502　中部電力	58.6	21.7	16	10.6	20	4.2	20	17.1	19	5.0	21	14
20	9505　北陸電力	57.4	19.4	19	11.0	19	4.5	18	17.2	18	5.3	19	17
21	9501　東京電力ホールディングス	46.4	16.7	21	7.9	21	3.8	21	12.9	21	5.1	20	21
	評価対象企業評価平均点	67.70	23.63		13.36		4.62		19.73		6.36		

（*)9508 九州電力が純粋持株会社体制へ移行

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（電力・ガス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9532　大阪瓦斯	76.1	27.4	1	14.8	2	4.7	4	22.5	1	6.7	3	2
2	8174　日本瓦斯	73.4	23.2	8	15.8	1	4.9	2	22.1	2	7.4	2	1
3	9531　東京瓦斯	73.0	26.4	2	14.0	5	4.6	9	21.5	3	6.5	4	3
4	9509　北海道電力	71.4	25.7	3	13.5	6	4.9	2	20.8	4	6.5	4	5
5	9507　四国電力	70.8	25.3	5	14.2	3	4.7	4	20.7	5	5.9	11	7
6	9504　中国電力	67.7	24.8	6	12.3	11	4.7	4	20.3	7	5.6	13	11
7	642A　キューデンホールディングス(*)	67.2	25.7	3	13.0	9	4.6	9	17.6	10	6.3	6	4
8	9513　電源開発	66.9	24.4	7	14.2	3	4.7	4	17.7	9	5.9	11	6
8	9519　レノバ	66.9	21.0	12	13.5	6	5.0	1	19.7	8	7.7	1	13
10	9533　東邦瓦斯	63.8	19.0	15	13.2	8	4.6	9	20.7	5	6.3	6	10
11	9506　東北電力	62.3	22.2	9	11.8	12	4.7	4	17.5	12	6.1	9	8
12	9503　関西電力	62.0	22.1	10	12.6	10	4.5	13	16.7	15	6.1	9	15
13	8088　岩谷産業	60.5	20.3	13	11.7	13	4.6	9	17.6	10	6.3	6	14
14	9502　中部電力	58.6	21.7	11	10.6	15	4.2	15	17.1	14	5.0	16	9
15	9505　北陸電力	57.4	19.4	14	11.0	14	4.5	13	17.2	13	5.3	14	12
16	9501　東京電力ホールディングス	46.4	16.7	16	7.9	16	3.8	16	12.9	16	5.1	15	16
	評価対象企業評価平均点	65.15	22.97		12.67		4.59		18.80		6.12		

（＊)9508 九州電力が純粋持株会社体制へ移行

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1605　INPEX	78.9	26.6	1	15.8	2	4.7	1	24.5	1	7.3	1	4
2	5021　コスモエネルギーホールディングス	76.4	26.1	3	15.9	1	4.7	1	22.7	2	7.0	2	1
3	5020　ENEOSホールディングス	75.2	26.4	2	14.7	5	4.7	1	22.4	3	7.0	2	3
4	5019　出光興産	74.0	25.3	4	15.0	3	4.7	1	22.1	4	6.9	4	2
5	1662　石油資源開発	67.9	22.2	5	14.9	4	4.6	5	19.4	5	6.8	5	5
	評価対象企業評価平均点	74.85	25.46		15.29		4.69		22.39		7.02		

2026年度の具体的評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	**20**
(2)社外取締役との対話	
・複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、利便性に配慮して、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、利益率または利幅、主要費用。	**10**
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	**10**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**3**
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	**2**
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	**5**
②非財務情報（人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	**5**
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	**15**
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等。	**10**

エネルギー専門部会委員

部　会　長	新家　法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野　零児	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	神近　広二	SMBC 日興証券
	西川　周作	大和証券
	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	山崎　慎一	野村證券

評価実施アナリスト（16 名）

安藤　誠悟	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	齊藤　博之	水戸証券
井澤　宏之	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	佐々木　聡	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井上　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	新家　法昌	みずほ証券
大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	富田　展昭	極東証券経済研究所
荻野　零児	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	西川　周作	大和証券
神近　広二	SMBC 日興証券	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
菊崎　雄太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
黒木　文明	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山崎　慎一	野村證券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。